

バレイシヨ (秋作)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|------|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|--------|----|
| 作型 | ◎ ————— × // | | | | | | | | | | | |
| 主な作業 | | | | | | | | | | 定 植 | 収 穫 | |

技術体系

1 作型の特徴

早期水稻の後作が主流である。

9月上旬から植え付けが始まり、年内に収穫を終了する作型である。生育初期は高温下に長くおかれるため茎葉の生育には適した温度条件であるが種芋の腐敗や青枯病の発生する危険性が大きい。

芋形成期には短日低温の好適環境で芋の肥大が促進されるため、バレイシヨ栽培には適した作型であるが、台風、秋雨などの被害には注意が必要である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度 生育適温 15～20℃

(2) 光 光飽和点は6万ルクス

(3) 土壌条件

排水良好で耕土が深く肥沃で膨軟な砂壤土、壤土が適する。土壌酸度はpH 5.0～6.0が良く4.5以下、7.0以上では生育が悪い。

4 経営目標

(1) 収量 2.2 t / 10 a

(2) 投下労働時間 205時間 / 10 a

(3) 所得率 45%

(4) 経営規模 60 a

(家族労働力2人の場合)

栽培技術

1 品種と特性

「デジマ」

中晩生種で、休眠期間が短く、春、秋二期作に適する。やや開張性の草姿で茎数、分枝数はやや多い。皮色、肉色とも淡黄白で、春作で収量が高い。

「ニシユタカ」

早晩生種で、休眠期間が短く、春作に適する。長円で外観がよく、病害抵抗性は強く多収である。

2 種芋

(1) 種芋の条件

休眠の長短は品種によって異なるため、休眠の短い種芋を選ぶ。

大きさは、35 g内外の無病種芋を使用する。

3 種子の予措

種芋の切断

高温時に種芋を切断すると腐敗がおきやすいため、できるだけ切断しない種芋を用いることが望ましい。やむを得ず切断した種芋を利用する場合は、切断後3日程度陰干して切り口に癒合組織ができたものを消毒して用いる。

種芋の消毒

切断した種芋の切り口に癒合組織ができたあとで種子消毒を行う。

4 耕起整地

芋の肥大には多湿を嫌うので、土をよく砕き、圃場が水田の場合とはくに深く耕起し畦を高くする。

5 植え付け

9月上中旬に植え付ける。植え付け前5～14日までに畦間灌水をおこない土壌水分を保つ。灌水は圃場全体に水が回ったら、水を圃場から落とす。植溝は6cm程度にし、種芋は発芽方向を揃えるために切口を下にして地面に配置し、その上に3cm程度覆土し、堆肥と化成肥料を施し、さらに5cm程度覆土をする。

栽植距離は畦巾60cm、株間20cmが普通で、土壌が適湿状態の朝方に表土が乾かないうちに覆土する。

植え付け直後に灌水すると種芋が腐敗するので注意が必要である。

種芋量 200～250kg/10a

6 施肥 (kg/10a)

| | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O | 備 考 |
|-----|----|-------------------------------|------------------|--------------------------|
| 基 肥 | 9 | 10 | 7 | 石灰の施用は、そうか病発生につながるのではない。 |
| 追 肥 | 6 | 0 | 6 | |
| 全 量 | 15 | 10 | 15 | |

基肥は早目に施用し、追肥は植え付け後3～4週間後に出芽が揃ったところで行う。

7 栽培管理

第1回目の培土は追肥時（9月下旬～）に、第2回目は草丈が20～25cmになった時に行う。

培土が遅れると芋が地面に出たり、根を痛めたりするので早めに行うようにする。

芽かき、除草なども適宜行うようにする。

8 収穫

秋作は生育期間が短いので、できるだけ遅くまで圃場においた方がよく、初霜をみて晴天が2～3日続いた時に堀取る。

掘り取りは朝方行い、夕方まで放置して表皮がむけにくくなってから搬入する。